

安曇野は豊科に生きる

等々力 秀和さん

平成二六年五月二十三日
安曇野市 花岡慧

「おれほど、自由奔放に生きて人間は、なかなかいないと思うよ」

そう言って、安曇野市豊科に暮らす、等々力秀和さん(昭和十六年二月二日生まれ七三歳)は、これまでの人生を語り始めた。



中学のころ

った坊主(やんちゃ)

おれは六人兄弟でね。おれだけ、そばが好きだった。お袋は五十代で死んでしまったけど、俺のただけにそばをうってくれた。その味は今でも忘れない。おふくろの思い出なんだ。散々迷惑かけた。親孝行、何にもしないまま死んでしまった。

中学の時、がった坊主(やんちゃ)で、書道の先生を、黒板に縛り付けて帰ったことがある。親父に散々怒られてね。先生にも怒られるかと思っただけど、先生は怒らなかつた。

若い先生だったけど、「お前みたいな、がった坊主はいない。まぐず、大変な生徒だよ」と笑っていた。そのあと、すごく仲良くなった。そういう意味で、人には恵まれたよ。今の子どもにはできない経験

だよなあ。

高校を卒業して自衛隊へ

高校のとき、航空自衛隊の試験を受けたんだよ。でも、通知が来ないから落っことかと思って、ある会社に就職したんだ。配属された部署では、みんな良くしてくれた。でも、勤め始めて三か月経った頃、自衛隊の合格の通知が来たんだ。

それで、課長に相談したよ。自衛隊に進みたいって話したら、行って来いって。でも戻ってこいよ、面倒はみてやると言ってくれた。

それで、入隊して熊谷に行ったよ。パイロットになりたかったけど、語学が苦手だった。それで、整備士になるために、浜松に移った。

三か月くらい経たときだった。課長から連絡がきたんだ。休暇することにして、給料を払ってくれてたんだ。俺のこと、買ってくれてね、実家まで来て説得してくれた。でも、もう戻れないと言って、諦めてもらったんだ。もうその人は亡くなってしまったけど、今でも非常に恩を感じてるんだよ。

は、が

それで整備士になって、二年間学校に通った。厳しいし、英語が必要で苦労した。

そのあと、小牧に転勤になって、いろんな資格を取ることができた。そこでは、機上整備員として、T-104って戦闘機の、試験もやった。

自衛隊を辞めて歯科技工士、そのあと、自動車の販売

でも、厳しい仕事でね、二三のとき、自衛隊を辞めたんだ。

そのあと、親戚の紹介で、今でいう歯科技工士の仕事に就けた。器用だったから。歯医者先生にも気に入られて、歯医者横の家を建てること

になったんだけど、先生が急に亡くなってね。その娘さんとは合わなくて、結局辞めたんだ。

歯医者に来ていた、自動車屋さんの専務が誘って来て、自動車の整備士の資格を持ってたから、自動車販売店に勤めた。営業になって、県内各地を回って、営業所を各地に作った。おかげで、顔がすごく広くなった。木曾では五百人くらいお客がいたかな。沢山売ったよ。

水道屋に四一歳の時

四一歳の時、女房の姉さんの旦那さんが、水道屋をやってたんだけど、不渡りをつかまされたことなどがあって、会社に役員として入って、手伝ってくれと言われた。

水道の仕事は全然知らなかったけど、必死で勉強したね。夢に出るくらい、勉強した。そのうち、大手の仕事も取れて、バブルもあって、儲かったよ。六十歳のとき、定年になったけど、取引先に説得されてね、結局二年くらい定年を伸ばして働けた。

昔住んでいた木曾の開田に山菜とりに行ったら歓迎してくれた

引退してから、車を売っていた頃住んでいた、木曾の開田に山菜をとりにいったら、顔見知りがたくさんいて、歓迎してくれたのはうれしかったよ。山菜からお土産までもらって、そんなことが何年か続いた。昔から地域と家族ぐるみのつきあいだから。開田の人たちは裏切らない。三十年も経つてるのに、たくさん年賀状を送ってくれるよ。

地域づくりは人との付き合いだ

いま、地域づくりをやってるけど、根底にあるのは、その時の経験だよ。人との付き合いだ。

最近では、「案内人倶楽部※」でも、みんなが助けてくれるようになった。辛いという感じがないのが、うれしいね。

昔の人たちの努力を、今の人に伝えたい。おれが安曇野を案内するのは、昔の人のおかげで今があるということ伝えるためでもあるんだ。それがおれの仕事。昔は散々迷惑かけた。「生きている」だった。これからは「生きていく」。これは、地域に恩返しをすること。やりたいことはたくさんあるよ。人にはマグロかカツオだねって言われる。なんかやってないとダメなんだ。

いまは、案内したお客さんから「ありがとう」と言われるのがうれしい。疲れがふっとぶよ。

等々カさんは終始笑顔で、楽しそうに話してくれた。

等々カさんは、これまでの人生の様々な仕事・経験の中で、幅広い人脈をつくってこられた。そのつながりを財産として、今、「安曇野案内クラブ」の代表を務めている。彼の半生は常に人との出会いの連続であり、その中で培った経験が、地域で活動する原動力になっているのだと感じた。

お話のあと、すぐに次の仕事があるという。お元気でという言葉は、まだまだ等々カさんには、早すぎるようだ。

※安曇野案内人倶楽部

：等々カ氏が代表を務める、芸術や史跡など様々な得意分野を持つガイドが所属し、安曇野の観光ガイドを行っている団体。また、JR穂高駅前にて、交流スペース「クラフトショップ安曇野」などを運営している。

安曇野市

花岡

い